

# 傾向と対策 2025

[入試科目別傾向と対策]

## 〔一般入試A〕

■英語 .....	20
■世界史 .....	22
■日本史 .....	24
■数学 .....	26
■化学基礎 .....	28
■生物基礎 .....	30
■国語 .....	32

※傾向と対策作成：河合塾グループ 株式会社 KEI アドバンス

## 英語

(一般入試は、一般入試Aの問題のみ分析しています)

## 出題傾向

入試日程	大問	出題分野・テーマ	難易度
2/3 2/4 2/5 共通仕様	第1問	空所補充問題(文法・語法、熟語)	やや易
	第2問	整序英作文問題(文法・語法、熟語)	標準
	第3問	対話文完成問題	やや難
	第4問	会話文および広告読解問題	標準
	第5問	長文読解問題	標準
	第6問	長文読解問題	標準

## ●出題形式

椋山女学園大学の入試は、3日程から試験日を選ぶことができるうえ、最大3日程すべて受験可能で、解答形式はすべてマークシート方式である。3教科型入試の場合、出願する学科によっては必須の科目もあるが、概ね任意の3科目を選択して受験する形式をとり、受験教科は出願時に事前申請する必要がある。試験当日には、教科別に設定されている試験時間割に従って受験する。2026年度入試も同様となっている。

## ●出題範囲と出題内容

## a. 出題範囲

コミュニケーション英語Ⅰ、コミュニケーション英語Ⅱ(リスニングを課さない)

## b. 出題内容(大問構成)

文法・語法空所補充問題1題、整序英作文問題1題、短めの対話文完成問題1題、長めの会話文読解問題と広告読解問題によって構成された大問が1題、長文読解問題2題の計6題(小問数は3日程とも40問に統一)

## ●問題の傾向

第1問は、単文中の空所に適切な語句を補充する形式である。高等学校の履修内容に沿った出題が主であるが、学習事項の活用を工夫して解答したい問題もある。第2問は整序英作文問題で、5つの選択肢を適切な順序に並べかえ、単文中の空所に入れて英文を完成させる形式である。日本語訳がなく、学習した文法事項や表現を活用しても、複数の英文が候補となる場合もあるが、文脈をよく考えれば正解できる。第3問は、2人の話者による1往復～1往復半の対話内に設けられた空所を補う形式である。あまり学校の授業では触れない口語表現や見慣れない熟語も多く、お決まりの応答を使っていない対話もあり、入試問題としては難しいものもあるが、対話の文脈を丁寧に読解し、ふさわしくない選択肢を丁寧に特定していくことで正解することができるだろう。第4問は、長めの会話文読解問題(小問数3)と、英語で書かれた広告などを題材とした問題(小問数2)の2つの形式で構成されている。会話文読解問題は、概ね文章中の空所への適切な表現の補充、下線部が意図している意味内容に類する表現の選択、文章の内容に関する問いへの回答として適切なものを選ぶ問題で構成されている。広く日常会話で用いられる表現や修辞などが見られるが、身近な状況の中での会話が主であるため、それぞれの話者の立場をメモしながら話を読み進めるとよい。広告読解問題で使用されている資料は、実際の日常生活で頻繁に目にするレイアウトのものが使用されており、各情報がどこにあるかがわかりやすい。設問で問われているポイントを先に仕入れておくと、資料がさらに読みやすくなるだろう。第5、6問は、入試標準レベルの単語・熟語や表現を用いた長文読解問題である。空所補充問題、下線部の意味を問う問題、内容に関する発問、真偽を問う問題、タイトル選択問題などが出題されており、それぞれ10の小問で構成されている。1つの文章における語数は標準的であるが、この文章量を2題分読んだうえで、計20の小問を解答しなければならないため、問題を解く練習だけでなく、入試問題演習にあたる前から英文を読む習慣を地道につけておきたい。単語や表現は概ね入試標準レベルではあるが、語注はなく、単語・熟語の知識以外を活用して文脈を把握してほしいという作問意図もうかがえる。設問は入試標準レベルのものが主であるので、設問文の要求を丁寧に理解しながら解答を進めたい。

## ●難易度

生きた口語表現が散見され、設問によってはやや難であると判断されるものの、総じて大学入学共通テストと同等の難易度である。

## 英語

(一般入試は、一般入試Aの問題のみ分析しています)

## 学習対策

全体的な難易度は概ね入試標準レベルであるが、高等学校で身につけるべき知識などをフル活用し、しばしば見られる生きた英語表現や興味深い題材に対応して解答する力を測ろうという意図がうかがえる作問である。約60分の試験時間で、相応の読解量と問題数を解く必要があるため、英語に慣れておくことは必須である。学校の授業で学習したことを完璧にしておくことはもちろん、日ごろから「英語に触れる生活」を送る努力も必要である。

## ●授業で学習することはすべて完璧にマスターしておこう

まずは、英語の初歩の初歩から現時点までの総復習と習得を急ごう。割り出される解答時間を考慮すると、英語を理解する時間は少なければ少ないほどよいので、復習しつつ「直感的に理解へと結びつく」まで何度も訓練や演習を繰り返しておき、英語を素早く理解する素地を作っておくとよい。テキストや問題集にある文章や設問を短い時間で解けるよう繰り返し訓練するだけでなく、幅広く英語のアンテナを張り、音声や映像などITや周辺機器をうまく活用して、様々な刺激によって英語を受信し理解する訓練をしよう。例えば、音声付きのテキストであれば、その音声と一緒に読み下したり、単語帳の音声を流して、そのスペルや訳語を書いたり声に出したり、会話の素材と一緒に発話し、話者になりきって発音してみたりするとよい。

## ●既習事項の習得をもとに、生きた英語に触れる機会を作っていこう

日常でよく使われるが、なじみのない表現も散見されることから、机上の学習だけに頼らずに、日常生活の中うまく英語を取り入れていくとよい。もちろん、その土台となるのは、今まで学習してきたことである。前述では、音声を補助とした訓練を紹介したが、補助がなくてもある程度スムーズに音読をできるようにしたり、表現の訳語が口から出てきたりするようにしたい。そのうえで、身の回りで英語を取り入れていくとよいだろう。例えば、自身のデジタル・デバイスの表記を英語にしたり、街中に数多くある英語表記をあえて使って情報を仕入れたり、翻訳機能を使って英語表記にしたページを閲覧したり、SNSの音声を英語にしたりと、工夫次第でいくらかでも英語を取り入れることはできる。今はAIも発達しており、辞書などが手元にない場合でも補助的にAIを用いて理解することも可能である。あくまでも、自身が英語を理解することが主であり、これらの機能はその理解する努力を補うためのものである。この環境を使いこなし、自分の能力を高める練習は、大学入学後にも大きく役立つ財産となるだろう。

## ●過去問を一度解いて自分の英語力を分析し、長所と短所を補強する演習を追加していこう

それぞれが得意・不得意とするポイントは違う。今までの総復習を終えた後は、制限時間を設けて過去問を解いてみよう。単にできた・できなかったという観点だけでなく、どの部分でどのくらい時間がかかったのか、どのような問題が解きにくかったのか、あるいは解きやすかったのかなど、細かく分析しておこう。そこから、よくできていたことは同系統のさらに難しい問題を演習して、実力を確固たるものにしていくとよい。あまりできていなかったことは、「単語・表現」「文法」「英文読解」「長文読解」「文脈判断」「速読」など、細かくポイントを分け、どの分野においてできていなかったかをチェックし集計する。そうすれば、「もっと読むスピードを上げる訓練が必要だな」「英文を丁寧に分析して理解する力がまだ雑だな」など、自分のやるべきことがより明確にわかってくる。ここで導き出されたポイントをそれぞれ「多少努力すればできる」レベルから演習を始めて、自分の納得がいく程度まで演習を進め、さらにもう一度過去問を解いてみる。その後、同じようなサイクルで勉強を進めていこう。これを繰り返していくことで、確実に力がつくだけでなく、正答率や解答率も着実に上がっていくだろう。「生きた英語」と聞くと、ひたすら英語に浸ることだけを思い浮かべる人が多いと思う。しかしながら、英語に触れられる機会が限られている以上、効率よく戦略的に英語を学習することがとても大切である。「実施→集計→分析→計画」のサイクルをうまく使い、入試で高得点を取ることができるようになるだけでなく、大学入学後、いや生涯にわたって培うことのできる学習方法を身につけるよい機会にしてほしい。

## 世界史

(一般入試は、一般入試Aの問題のみ分析しています)

## 出題傾向

入試日程	問題	出題分野・テーマ	難易度
2/3	問1～問26	様々な国の領土拡大とそれに関連する歴史的事象 民族・集団・国家の分裂とそれに関連する歴史的事象	標準
2/4	問1～問26	言語や文字とそれに関連する歴史的事象 様々な国の通貨とそれに関連する歴史的事象	標準
2/5	問1～問26	世界の建造物とそれに関連する歴史的事象 様々な宗教の聖地とそれに関連する歴史的事象	標準

## ●出題形式

どの日程においてもリード文のない一問一答形式で出題されている。設問数は26問で、2月3日の問題では21問、2月4日、5日の問題ではそれぞれ22問が4つの文章の正誤判定問題であった。その他の問題は、4つの語句から適切なものを選択する問題がほとんどであるが、2月3日、5日の問題では4つの出来事の年代配列問題も1問ずつ出題された。地図・写真・グラフ・史料などを使用した形式の問題は出題されていない。

解答形式はすべてマークシート方式で、記述解答問題はない。

## ●出題範囲と出題内容

## a. 出題範囲

先史時代に関する問題はないものの、すべての日程で古代史から現代史まで幅広く出題されている。

## b. 出題内容

一問一答形式で出題されているため、それぞれの設問で問われている内容に関連性はない。どの日程もヨーロッパに関する問題が十数問出題されており最も多いが、中国・朝鮮といった東アジア、古代オリエントやイスラーム世界といった西アジアに関する問題も5問程度ずつ出題されており、ヨーロッパ史・アジア史の知識がバランスよく問われている。これに加えて、アメリカ、インド、東南アジア、中央アジアなどに関する問題も見受けられるため全時代・全地域から満遍なく出題されていると言えよう。各日程で数問ずつ文学・美術・建築といった文化史の知識が問われているが、出題されている分野は政治史が中心である。

## ●問題の傾向

全日程の8割以上の問題で正誤判定の形式がとられている。他大学の入試問題と比較すると問題数は少ないが、圧倒的に正誤判定問題が多い構成である。したがって、単なる歴史用語の暗記ではなく、一つひとつの歴史的事象をしっかり理解すること、さらに選択肢の文章を正確に読み取り自分の知識をもとに正誤を判断する思考力が求められている。

## ●難易度

問題の難易度は標準的で、概ね教科書レベルの知識が問われており、曖昧な正誤性を問うような正誤判定の出題もない。基礎的な知識を身につけ、正誤判定問題の演習を繰り返し行うなど対策をすれば、十分に高得点を取ることができるだろう。

## 世界史

(一般入試は、一般入試Aの問題のみ分析しています)

## 学習対策

## ●全時代・全地域の対策ができるよう、計画的に学習を進めよう

前述したように椋山女学園大学の入試問題は古代史から現代史まで満遍なく出題され、一問一答形式で構成されているため出題されている地域も様々である。アメリカの同時多発テロ事件やイギリスのEU離脱といった21世紀の出来事も出題されているため、古代史から学習して現代史の学習が不十分であると高得点を取ることが難しい。また、ソグド人の活動やカンボジアの遺跡といった、苦手意識を持つ受験生が多い中央アジアや東南アジアに関する事項も出題されている。正誤判定問題が多く出題されることもふまえると、通史をしっかりと学習したうえで、苦手な範囲を復習する時間や問題演習を繰り返す時間も確保できるよう、しっかりと学習計画を立てて取り組もう。

## ●教科書を精読し、歴史の流れを理解しながら基礎知識を身につけよう

歴史の学習を教科書に太字で記された重要語句の暗記だにとらえている受験生も多いが、そのような姿勢で学習していると正誤判定問題を解いた際に、どの選択肢にも知っている語句ばかりが並んでいて、すべて正しいと感じることがあるのではないだろうか。単に事件名を覚えるのではなく、事件がどこで起こり、どのような国や人物が関係しているのか、その背景には何があったのか、どのような結果や影響をおよぼしたのか、他の歴史的事象と類似点・相違点はあるのかを丁寧に確認しながら教科書を読み進めてほしい。このように、歴史的事象を理解することに重点を置いて教科書を精読し、正誤判定問題に対応できる知識を身につけよう。

## ●積極的に正誤判定問題の演習を行い、問題を解く力を養おう

椋山女学園大学の入試では正誤判定問題の出題が圧倒的に多いため、この形式の対策を行っているか否かで合否が分かれる。ぜひ、正誤判定問題を多く掲載した旧センター試験・大学入学共通テスト対策用の問題集を1冊購入して、演習を繰り返してほしい。正誤判定問題を解く際は何となく正解を選ぶのではなく、選択肢の一文一文を丁寧に読み、誤文については誤っている部分をチェックし、正文に書き換えよう。誤文の根拠がわからない場合は、用語集で調べて知識を増やしていこう。このような演習を続けていくと、正誤性を問われやすい部分に注意しながら選択肢を読む習慣が自然と身につくとともに、自分の知識から類推したり、消去法を用いて正解を絞ったりすることができるようになるはずである。

また、学校の定期試験では教科書に沿って特定の時代や地域が試験範囲として指定されるが、椋山女学園大学の入試では、「ロシアについて」の問題でロマノフ朝の成立・二月革命・スターリン憲法・ソ連の解体といった幅広い時代の出来事が、「漢字の成立と普及について」の問題で中国・朝鮮・ベトナムと複数の地域に関する知識が、1つの正誤判定問題の中で問われている。必ず椋山女学園大学の過去問を解き、異なる時代や地域に関する知識を柔軟に活用して問題を解く力を養い、どのような問題でも自信を持って解けるようにしておこう。

## 日本史

(一般入試は、一般入試Aの問題のみ分析しています)

## 出題傾向

入試日程	大問	出題分野・テーマ	難易度
2/3	第1問	1900年代～2010年代までの国際環境	標準
	第2問	原始～近世までの総合問題(政治・社会・文化・政策・法令)	標準
	第3問	近世～2010年代までの総合問題(政治・社会・政策・法令)	標準
	第4問	近現代の総合問題(政治・社会・政策・法令)	標準
2/4	第1問	16世紀～2010年代までの外交	標準
	第2問	原始～近世までの総合問題(政治・社会・政策・法令)	標準
	第3問	近世～1990年代までの総合問題(政治・社会・法令)	標準
	第4問	近現代の総合問題(政治・外交・社会・文化)	標準
2/5	第1問	近代～現代までの社会・産業・経済	標準
	第2問	原始～近世までの総合問題(政治・社会・文化・政策・法令)	標準
	第3問	原始～1990年代までの総合問題(政治・社会・文化・政策・法令)	標準
	第4問	近現代の総合問題(政治・社会・文化・政策・法令)	標準

## ●出題形式

すべての日程で大問4題、小問(総解答数)36～37問で構成されている。問題数(量)も適切な分量となっており、時間内での解答が可能である。解答形式は全問マークシート方式であり、設問形式は文章による正誤判定問題・年代配列・語句選択・組み合わせ問題となっている。

## ●出題範囲と出題内容

## a. 出題範囲

出題範囲は原始・古代から現代(2010年代)までの全時代が出題されている。

## b. 出題内容

分野としては政治史・通史を中心に、外交、社会経済、文化などが出題され、時代をまたいだテーマ史の出題も見受けられる。

## ●問題の傾向

文章による正誤判定問題が全体の65%前後を占めている。1つの選択肢の文章が2～3行で構成され、内容もやや難しい印象を持つ受験生が多いかもしれない。しかし、設問の多くが定番かつ明確な誤りを含んでいるので、冷静に読めば、培った基本知識で正解が導き出せるように作成されている。

2024年度から会話形式のリード文を用いた出題のほかに、空所補充を語句ではなく文章を選ばせる出題が見られた。2025年度も同様の出題形式が踏襲され、分量が多くなった。

史料の出題も見られる。出題されている史料は教科書や史料集に掲載されている基本・頻出史料なので、普段から「何に関する史料か」、「どのような内容なのか」を意識しながら学習していれば、正解が導き出せる。また椋山女学園大学では、古代から戦後までの文化史の出題も見られる。日本史の学習はどうしても政治史(通史)中心になり、文化史に着手しないまま本番を迎えるという受験生も多い。日本史という科目は、学習して知識が身についた分だけ得点に結びつく科目でもある。入試では、少しでも得点を積み重ねることが大切なので、文化史の学習も余裕を持って対応してほしい。

## ●難易度

椋山女学園大学の入試の難易度は全問が標準レベルである。「標準」とは、教科書・用語集・史料等をベースとし、基本に忠実な良問という意味であり、決して簡単な問題という意味ではない。入試のレベルは標準とはいえ、しっかりと学習ができていないと合格ライン(7～8割の正解率)を超えることは困難である。次の<学習対策>を参考にして、積極的に学習に取り組んでほしい。

## 日本史

(一般入試は、一般入試Aの問題のみ分析しています)

## 学習対策

## ●教科書・用語集を用いて知識の吸収と整理

総じて教科書の範囲内からの出題となっているので、まず教科書を読み「どういう出来事があったか」、「どのような人物が登場しているか」、「どのような政策を行っていたか」、「どのような結果になったか」などを確認しよう。そしてそれらを時代ごとにノートにまとめるなどして、オリジナルのテキスト(ノート)を作成しよう。そうすることで知識はもちろん、「流れ」が把握できるようになる。「流れ」が把握できるようになれば、2023年度から2024年度にかけて出題された「背景」「状況」を問う問題にもしっかりと対応できるようになる。学習の際には用語集のほかに史料集なども積極的に利用して、知識・理解の充実をはかるようにしよう。

## ●問題集で実戦感覚を磨く

単に知識を吸収するだけではなく、その知識を実際の入試で使えるようにしよう。吸収した知識を使える「道具(アイテム・ツール)」にするために、積極的に問題演習を行うとよい。特に、椋山女学園大学では正誤判定問題の克服が合格への鍵を握っていることから、標準的な正誤判定問題集を積極的に利用しよう(1冊ではなく、3冊程度が望ましい)。正誤判定問題への対応は、選択肢の各文を読んで、「誤った語句(人物・事項など)が入っていないか」、「各時代や政策に関するキーワードが入っているかいないか」を正確に判断できるかが鍵になる。また、数多くの問題に触れることで、「どこが狙われやすいか」なども次第にわかるようになってくる。普段の学習から「紛らわしい語句」、「何年代か(何世紀か)」、「結果がどうなったのか」などを意識しながら学習を進めていくことが重要である。日本史という科目は、学習して知識が身についた分だけ、得点にすぐに結びつく科目でもあるので、一問一答集などを常に利用して、知識が離れないようにすることが大切である。

## ●文化史で差をつける

椋山女学園大学では、政治史(通史)を基本とした出題のほかに、古代から近現代の政治史(通史)・文化史の比重が高いことも特徴である。2025年度は文化史の出題は少なかったが、2026年度はその反動で多く出題されることも考えられるので注意したい。

文化史の学習の際には、「作者・作品」はもちろんのこと、「どの時代の作品なのか」などを意識して学習を進めてほしい。なお、文化史は政治史・通史が終わってから学習するのではなく、鎌倉時代の政治史・通史が終わったら鎌倉文化の学習をするというように、政治史・通史と連動させた方がよい。また、2020~2022年度は各日程で彫刻・建築・絵巻物などが写真で出題されていたが、2024年度から1日程のみとなり、2025年度も同様であった。2026年度以降もこの傾向は続くと思われる。出題されている写真は、多くの教科書に掲載されているものばかりである。単に作品名を覚えるのではなく、視覚的にも対応しておくことが望ましい。

## ●年代配列で差をつける

例年、年代配列問題が各日程で2題ほど出題されていたが、2025年度は1日程のみの出題であった(2題の出題)。年代配列問題は、「知っている年代を基準に前後を特定する」、「何世紀の前半・中頃・後半か」、「何時代か」、「為政者が誰のときか」を特定することで正解が導き出せる。決して正確な年代を知っていないと解けないという問題ではない。年代配列の学習は、正誤判定問題にも関連・直結しているので、問題集(旧センター試験の過去問など)を利用してさらに実力を磨いていこう。

最後に、椋山女学園大学の過去問にも取り組み、万全の態勢で試験に臨んでほしい。しっかりと理解と知識を積み重ね、自信と実力を身につけて、ぜひ合格を勝ち取ってもらいたい。

## 数 学

(一般入試は、一般入試Aの問題のみ分析しています)

## 出題傾向

※第3問、第4問は【数学Ⅰ・数学A】または【数学Ⅱ・数学B・数学C】のどちらかを選択

入試日程	大問	出題分野・テーマ	難易度
2/3	第1問	数学Ⅰ 数と式/集合と命題/データの分析	やや易
	第2問	数学Ⅰ 2次関数	やや易
	第3問 (選択)	数学Ⅰ・A 図形と計量/図形の性質	標準
		数学Ⅱ 微分法と積分法	標準
	第4問 (選択)	数学A 場合の数と確率	標準
数学C 空間のベクトル		標準	
2/4	第1問	数学Ⅰ 数と式/集合と命題/データの分析	標準
	第2問	数学Ⅰ 図形と計量	標準
	第3問 (選択)	数学Ⅰ 2次関数	やや難
		数学Ⅱ 指数関数/微分法と積分法	やや易
	第4問 (選択)	数学A 場合の数と確率	標準
数学Ⅱ・B 数列/三角関数		標準	
2/5	第1問	数学Ⅰ 数と式/集合と命題	やや易
	第2問	数学Ⅰ 2次関数	標準
	第3問 (選択)	数学Ⅰ・A 図形と計量/図形の性質	標準
		数学Ⅱ 図形と方程式/三角関数	標準
	第4問 (選択)	数学A 場合の数と確率	標準
数学Ⅱ・B 数列/対数関数		標準	

## ●出題形式

数学は試験時間60分で大問を4題解答する形式である。第1問・第2問は必答問題、第3問・第4問は【数学Ⅰ・数学A】、【数学Ⅱ・数学B・数学C】のどちらか一方を試験会場で選択して解答する。

解答形式は、当てはまる数値または適切な選択肢の番号をマークするマークシート方式である。

## ●出題範囲と出題内容

## a. 出題範囲

数学Ⅰ・数学A (図形の性質・場合の数と確率)・数学Ⅱ・数学B (数列)・数学C (ベクトル)

※【数学Ⅰ・数学A】と【数学Ⅱ・数学B・数学C】のどちらかを選択する

## b. 出題内容

第1問・第2問は必答問題で数学Ⅰから出題されている。第3問・第4問は【数学Ⅰ・数学A】と【数学Ⅱ・数学B・数学C】の選択問題で、【数学Ⅰ・数学A】は「2次関数(数学Ⅰ)」・「図形と計量(数学Ⅰ)」・「場合の数と確率(数学A)」・「図形の性質(数学A)」から、【数学Ⅱ・数学B・数学C】は「図形と方程式(数学Ⅱ)」・「指数関数(数学Ⅱ)」・「対数関数(数学Ⅱ)」・「三角関数(数学Ⅱ)」・「微分法と積分法(数学Ⅱ)」・「数列(数学B)」・「空間のベクトル(数学C)」から出題されている。

## ●問題の傾向

2025年度入試の第1問は小問集合であり、小問数は3、各小問で1つの単位に関する独立した問題が出題されている。第2問～第4問は1つのテーマについて2～6題の設問に答える問題となっている。

2025年度入試では「数と式(数学Ⅰ)」と「2次関数(数学Ⅰ)」が全日程で出題された。また、「式と証明(数学Ⅱ)」からの出題は見られなかった。

## ●難易度

2025年度入試は第1問・第2問の必答問題と第3問・第4問の選択問題との間で難易度に差がある試験となった。第1問・第2問の必答問題は典型問題で取り組みやすいが、第3問・第4問の選択問題の中には思考力が必要とされる問題や目新しい設定の問題があり、典型パターンの解法暗記だけでは完答しにくいものとなっている。ただ、いきなり難度の高い問題が出題されるというよりも、具体例や誘導が付いている問題が多く、問題の流れに乗れるか否かもポイントである。

## 数 学

(一般入試は、一般入試Aの問題のみ分析しています)

## 学習対策

概ね60分の試験時間で大問4題を解答する形であるが、試験時間に対して問題量は多めであるため、時間配分を含めた対策が必要である。

## ●基礎固めから始めよう

教科書の内容をしっかりと理解し、定理や公式を正確に使えるようになることが合格への第一歩となる。まず基本事項の確認からスタートし、教科書の章末問題を一通り自力で解けるようにしておこう。

また、教科書による演習と並行して教科書傍用問題集によるトレーニングも効果的である。問題集で解けなかった問題は教科書に立ち返って確認するようにし、わからない部分があれば学校の先生などに質問してみよう。これを繰り返すことで、基礎力は完璧になる。

## ●実戦力を身につけよう

次に、実戦力を身につけよう。第3問以降の単独テーマ問題の中には、見慣れない設定のものもあり、典型問題の演習だけでは太刀打ちできない可能性がある。この部分の対策に関しては、大学入学共通テスト・旧センター試験の過去問や、マーク試験対策用の問題集によるトレーニングが難易度としてもちょうどよいだろう。また、模擬試験の解き直しも有効である。

問題を解いた後は答えを確認するだけでなく、別解なども含め解答過程を丁寧に読み込もう。解答の流れを確認したら、「なぜそのような変形をしたのか」など思考プロセスを深掘りすることで、様々な問題に対応する力が身につくはずである。

## ●最後に

相山女学園大学の入試は第1問・第2問が【数学I・数学A】からの出題、第3問・第4問【数学I・数学A】、【数学II・数学B・数学C】のどちらか一方を選択して解答する選択問題になっている。そのために、数学I・数学Aのみの学習で受験が可能であるが、数学II・数学B・数学Cまで学習すると「解法の幅が広がる」「第3問・第4問で問題の選択ができる」などのメリットが存在する。予め数学I・数学Aのみでの受験を考えている受験生は注意してほしい。

最後に、過去問を通して、大問の解答の順番や大問ごとの解答時間のシミュレーションをしておこう。単純計算すると大問1つにつき15分ほどかけることができるが、第3問・第4問は難度が高いため、時間配分はしっかり考えておくべきである。

以上の準備がすべて整えば、結果は伴ってくるはずである。健闘を祈る。

## 化学基礎

(一般入試は、一般入試Aの問題のみ分析しています)

## 出題傾向

入試日程	大問	出題分野・テーマ	難易度
2/3	第1問	物質の構成と化学結合 (物質の構成、物質の構成粒子、粒子の結合)	やや易
	第2問	物質の変化 (物質量、濃度、化学反応式と物質量)	標準
	第3問	物質の変化 (酸と塩基)	やや難
	第4問	物質の変化 (酸化還元反応)	やや難
2/4	第1問	物質の構成と化学結合 (物質の構成、物質の構成粒子、粒子の結合)	やや易
	第2問	物質の変化 (濃度、化学反応式と物質量)	標準
	第3問	物質の変化 (酸と塩基)	やや難
	第4問	物質の変化 (酸化還元反応)	標準
2/5	第1問	物質の構成と化学結合 (物質の構成、物質の構成粒子、粒子の結合)	やや易
	第2問	物質の変化 (物質量、化学反応式と物質量)	やや難
	第3問	物質の変化 (酸と塩基)	標準
	第4問	物質の変化 (酸化還元反応)	やや難

## ●出題形式

いずれの日程の試験も大問数は4題、解答数は40で、解答群の中から正答を選ぶマークシート方式である。

## ●出題範囲と出題内容

## a. 出題範囲

どの日程も、ほぼ「化学基礎」の全範囲からの出題で、偏りはない。

## b. 出題内容

「化学基礎」のすべての内容から出題されている。具体的には、次のようなものがあげられる。

純物質と混合物、物質とその成分、物質の三態と熱運動、原子とその構造、イオン、周期表、イオン結合とイオン結晶、共有結合と分子、配位結合、共有結合の結晶、相対質量、原子量、物質量、溶液の濃度、化学反応式と物質量、酸・塩基、水素イオン濃度とpH、中和反応と塩、中和滴定、酸化と還元、酸化剤と還元剤、金属の酸化還元反応、酸化還元反応の利用

なお、「化学基礎」の教科書で「発展」や「参考」として扱われている内容からの出題もある。

## ●問題の傾向

いくつかの問いでは「正しいものの組み合わせは□□である。」「○○であるものは□□個である。」「○○を順に並べたものは□□である。」という形式になっており、与えられている記述すべての正誤が判断できないと正答できないものもある。また、計算問題では、前問が正答できてはじめて正答を導き出せる問題もある。さらに、中和滴定や酸化還元滴定などの実験問題が頻出であり、実験器具の使い方や終点の判断の方法など実験操作に関する内容はもちろん、実験結果をきちんと考察できないと正答できない問題もある。

## ●難易度

どの日程も難易度にそれほど差はない。出題されている問題の多くは教科書に記載されている内容であり、全体としての難易度は標準だが正答しにくい問題もある。計算問題は、化学反応式の係数をつけ間違えると正答を導き出せないものもあるため、注意が必要である。

2025年度では、2月3日の第2問の間2(b)で質量モル濃度の計算問題が出題されており、「化学基礎」では取り扱わない濃度なので解きにくいと感じた人もいるかと思うが、定義が記されているので、普段から問題を考えて解く習慣があればそれほど苦労しなかったと思われる。第3問の間2(b)で“希硫酸”という語句を見て、問題をよく読まずに価数の2をかけると間違える設問もあった。第4問は教科書の「発展」内容であるヨウ素滴定で、同様の問題を解いたことがなければ正答しにくかった。

2月4日の第1問の間2(b)のイオン半径の大小は、教科書の「発展」の内容なので正答しにくい。第2問の間1(b)の希硫酸の調製方法は、実験に関する知識が必要であり、「化学基礎」の単元しか学習していない人には正答しにくかった。第3問の間2は、電離度をきちんと理解していないと正答しにくかった。第3問の間3は、苦手意識を持つ人が多い「弱酸の遊離反応」、「弱塩基の遊離反応」がきちんと理解できているかがポイントとなった。

2月5日の第2問の間2は「化学」の無機化学で学習する計算問題で、「化学」を学習していなくても解ける問題ではあるものの、初見では正答しにくかった。第3問の間2は中和滴定の実験問題で、典型的な問題であるが演習を十分積んでいないと正答しにくい設問であった。第4問の間1(a)の酸化数、問3の電池の問題は正答しにくかった。

## 化学基礎

(一般入試は、一般入試Aの問題のみ分析しています)

## 学習対策

## ●教科書の内容のすべてを理解し、覚えなければならないことはきっちり暗記すること

椋山女学園大学の入試は、「化学基礎」の教科書に記載されている内容から幅広く出題されているが、一部に「発展」や「参考」として扱われている内容も含まれている。2025年度では、ヨウ素滴定、イオン半径の大小などである。それ以外にも、「化学」で学習する質量モル濃度、無機化学の硫酸の工業的製法をもとにした問題なども出題されている。これらの問題は、「化学基礎」で学習した知識や理解力があれば正答できるものがほとんどであるが、初見だと戸惑う可能性が高い。また、酸化数のルールは「共有結合している原子の酸化数は、共有電子対の電子が電気陰性度の大きな原子のほうへ完全に移動したと仮定して考える」ことを学習していないと、正答できない設問もあった。このような設問に対応するためには、教科書の(例題)や(問)などの問題を解くだけでなく、教科書を熟読して定義などを確実に理解して覚えなければならない。また、計算問題などは、典型的な問題の解法を暗記して終わるのではなく、なぜそのような解法をとるのかを考えながら解くことが大切である。先にも記したとおり、「化学基礎」ではなじみのない実験操作なども出題される可能性があるため、余力があれば、実験操作については図表や図説などで確認しておこう。

## ●教科書傍用問題集を活用すること

教科書の(例題)や(問)だけでは演習量が足りないため、教科書傍用問題集を用いて学習することをおすすめしたい。その際、問題集の問題を解いて満足するのではなく、問題を解き終わったら教科書の同範囲をもう一度熟読すると理解が深まったり、新たな発見が見つかったりする。教科書での学習を大切にしたい。酸と塩基、酸化還元では実験をもとにした計算問題や考察問題が出題されることが多いので、その部分は完璧にマスターしておきたい。また、実験をもとにした計算問題では濃度が関わってくるが、水和水を持つ物質を扱った濃度の計算問題も頻出なので、ミスなく取り扱えるようにしておきたい。

## ●過去問の対策を十分に行うこと

椋山女学園大学の入試では、「化学基礎」でなじみのない問題が出題されることがある。教科書と教科書傍用問題集を用いて学習したら、過去問を解いてみよう。過去問を解いた際になじみのない問題が出題されていたら、図表や図説でその内容を確認しておこう。十分学習しているのに、なじみのない問題に戸惑いを感じたら、自分以外の受験生も戸惑いを感じているはずである。完答を目指すのではなく、学習したことのある問題ならばミスをしないこと、問題文を正確に読み取り考えながら解くことを意識して学習していけば、合格を勝ち取ることができるはずである。

## 生物基礎

(一般入試は、一般入試Aの問題のみ分析しています)

## 出題傾向

入試日程	大問	出題分野・出題テーマ	難易度
2/3	第1問	細胞の構造・顕微鏡	標準
	第2問	DNAの抽出・核酸の構造・遺伝情報の複製と分配	標準
	第3問	腎臓・免疫	標準
	第4問	バイオーム・地球温暖化	標準
2/4	第1問	細胞の構造・顕微鏡	標準
	第2問	遺伝情報の複製と分配	標準
	第3問	体液・循環・血液凝固	標準
	第4問	植生の遷移	標準
	第5問	生態系のバランス	標準
2/5	第1問	代謝・酵素	標準
	第2問	DNAの研究史・遺伝情報の発現・ゲノム	標準
	第3問	自律神経系・血糖調節と体温調節	標準
	第4問	バイオーム	標準
	第5問	生態系のバランス・生物多様性の保全	標準

## ●出題形式

大問の数は、2024年度は全日程で5題であったが、2025年度では2月3日が4題、2月4日、2月5日が5題となっている。

解答形式はすべてマークシート方式であり、総マーク数は各日程で45個となっている。

## ●出題範囲と出題内容

## a. 出題範囲

生物基礎の全範囲である。

## b. 出題内容

生物基礎の大きな三分野「生物と遺伝子」、「生物の体内環境の維持」、「生物の多様性と生態系」から1～2題ずつが各日程で出題されており、教科書の全範囲からバランスよく出題されている。実際の生物の写真を用いた問題は2023年度にはなかったが、2024年度、2025年度と連続で出題されている。生物基礎の教科書の「参考」にしか記載のない内容が一部の設問に見られる。

## ●問題の傾向

空所補充問題、文章正誤問題、計算問題、考察問題がバランスよく出題されており、総合力が問われる試験となっている。試験時間に対する問題の分量は標準的であるが、マーク数はやや多い。計算問題とデータを読み取って考察する問題は各日程で必ず出題されるため、ここで時間を浪費しないことが重要となる。

## ●難易度

標準的な難易度の問題がほとんどを占める。しかし、2月4日の第5問などでは、教科書に記載されている知識だけでなく、問題文から読み取った情報をあわせて考える必要がある問題も出題されている。また、2月3日の第2問・第3問、2月5日の第2問では、ミスを誘導するような計算問題が出題されている。問題文を正確に読み取る習慣を身につけておきたい。さらに、2月4日の第5問のように、類題を解いた経験がないと難しい考察問題が出題されるなど、一部でやや難度の高い問題が出題されているが、全体としては標準的な難易度となっている。

## 生物基礎

(一般入試は、一般入試Aの問題のみ分析しています)

### 学習対策

#### ●教科書レベルの知識が重要

まずは、「生物基礎」の教科書に記載がある知識をマスターすることが大切である。知識をしっかりと覚えていないと、本番で思い出そうとして時間を浪費してしまうため、知識を瞬時に引き出せるように教科書を何度も読み返しておこう。また、過去の入試では、教科書の「参考」からの出題もある。教科書は本文だけでなく、「参考」や「発展」、脚注などにも目を通しておこう。分野に関しては、全分野からバランスよく出題されているため、苦手分野もしっかりと学習しておきたい。「生物基礎」では、特に植生の遷移・バイオームに関する分野を苦手とする受験生が多い。バイオームや植物の画像などをインターネットで検索したりして、具体的にイメージしながら学習するとよいだろう。

教科書の知識は、ただ太字の語句を丸暗記すればよいわけではない。語句を問われる空所補充問題もあるが、語句の定義や、語句と語句のつながりの理解を問われる問題も多く出題される。教科書は、単語の暗記だけではなく、生命現象の流れを理解できるまで読んでおきたい。例えば、血糖濃度の調節では、自律神経系と内分泌系に関する語句だけを暗記するのではなく、血糖濃度が変化したときの自律神経系と内分泌系の作用を、具体的に自分で説明できるようにしておきたい。そのためには、自ら情報を整理してノートにまとめる作業が大切である。分野ごとの様々な生命現象の流れを書いてまとめることによって、学習効果は跳ね上がるだろう。

#### ●計算問題は典型問題をマスターしよう

計算問題は、典型問題が多く出題される。例えば、2025年度に出題された「尿生成に関する計算」や「光学顕微鏡の操作に関する計算」などは、ほとんどの学校の定期テストで出題されるような典型問題である。計算問題のほとんどは標準的な難易度であるため、定期テストのほか、過去問や教科書傍用問題集などで演習を繰り返すことによって、できるだけ多くの典型問題の解き方をマスターしておこう。

計算問題に苦手意識を持っている受験生は、正しい解法で解いた経験がないことが多い。演習を繰り返す中で、正しい解法を用いて算出する経験を積むことができれば、やがて苦手意識はなくなるだろう。また、2月4日の第2問のようなやや発展的なレベルの計算問題も出題されるが、このような問題で時間をとられすぎると、他の問題に時間を回せなくなってしまうため、発展的な問題は後回しにして、まずは典型的な計算問題を解き切ることを目標として、時間配分を意識しよう。

#### ●考察問題では知識と情報整理能力が重要

考察問題も、計算問題と同様に、苦手意識を持っている受験生が多い。考察問題には知識を応用して考えるものが多いが、そこに用いる知識が抜けていると考察することさえもできない。まずは教科書レベルの知識をしっかりと身につけてから、考察問題の演習に挑もう。また、考察問題では、多くの情報を整理してまとめる必要がある。頭の中で考えるだけではうまく情報整理ができないので、自分の持っている知識や問題文から得られた情報を書き出してまとめて、素早く解答にたどり着けるようにしておこう。さらに、考察問題は時間がかかるため、知識問題や計算問題をいかに早く解いておくかが重要となってくる。

#### ●過去問を解いておく

過去問を解くことで、出題形式、出題内容ともに把握しておきたい。また、誤答や計算ミスを誘導するような問題も散見されるため、このような問いがあるという認識を持っておこう。生物基礎の範囲は広くないため、過去に出題された内容に類似した問題が繰り返し出題されることも多い。これらのことから、過去問を解くことが最後の仕上げになってくる。教科書や問題集でしっかりと勉強したうえで、過去問演習を繰り返そう。

## 国語

(一般入試は、一般入試Aの問題のみ分析しています)

## 出題傾向

※第二問は現代文または古文のどちらかを選択

入試日程	大問	出典	難易度
2/3	第一問	周燕飛『貧困専業主婦』	標準
	第二問 【古文】	『宇治拾遺物語』	標準
	第二問 【現代文】	岩野卓司「野生の教養のために——未来のカニバリズムのためのブリコラージュ」(『野生の教養——飼いならされず、学び続ける』)	標準
2/4	第一問	堀江敏幸『なずな』	標準
	第二問 【古文】	『更級日記』	標準
	第二問 【現代文】	宮坂道夫『対話と承認のケア——ナラティブが生み出す世界』	やや難
2/5	第一問	村上靖彦『客観性の落とし穴』	標準
	第二問 【古文】	『蜻蛉日記』	標準
	第二問 【現代文】	デニス・ダンカン『索引 ～の歴史——書物史を変えた大発明』	標準

## ●出題形式

すべて長文形式の総合問題であり、基本的に五肢択一(一部の問題を除く)のマークシート方式である。第一問は解答必須問題の現代文であり、第二問は【古文】か【現代文】のどちらか一方を選択して解答する形式となっている。

## ●出題範囲と出題内容

## a. 出題範囲

現代文は近代以降の文章、古文は近世以前の文章である。漢文は出題されていない。

## b. 出題内容

## 【現代文】

例年と同様に、2025年度も基本的に評論文からの出題であったが、2月4日の第一問のみ、問題文に小説文が用いられた。ジャンルは、経済学、哲学、倫理学、書物史などであり、多彩なジャンルから出題されている。総じて主張の明確な文章が多く、設問の難易度も総じて標準的であった。ただし、前述のとおり2月4日の問題は小説文が出題されたため、事前に対策を行っていなかった受験生には難しく感じられたかもしれない。

## 【古文】

2024年度の出典が平安期の日記と歌論、江戸初期の仮名草子であったのに対し、2025年度は2024年度と同様に平安期の日記が出題されたほか、鎌倉時代の説話からも出題された。いずれも内容を読み取りやすい引用箇所からの出題であった。設問の難易度も標準的なものと言える。

## ●問題の傾向

## 【現代文】

設問数は、第一問は10～11問（マーク数14～23）、第二問は8～12問（マーク数10～17）。設問は、漢字、語句の意味、接続詞・副詞・語句（四字熟語含む）・文の空所補充、傍線部の内容説明または理由説明、内容一致（不一致）など、いずれも現代文入試の定番問題であった。ただし、2月4日の第一問では、小説文が出題されたため、評論文におけるものとは異なる趣旨の設問が見られた。具体的には、心情説明のような一般的な小説問題ではなく、婉曲的であったり、詳述を避けようとしたりする表現の理解を問う設問が特徴的であった。

第一問の文字数は、2月3日は約5,700字と長めだが、4日と5日は約3,100～3,300字程度であった。設問内容は漢字の書き取り・読み、語句・慣用句の意味を問う問題、空所補充問題（接続詞・副詞・語句・文）、内容理解に関する問題、問題文の趣旨などである。また、第二問の文字数は約4,800～5,600字程度と長めの文章が出題されており、第一問と合計した現代文の分量は、2024年度と比較すると全体的に増加している。

ちなみに、2024年度は生徒同士の会話を提示し、出典の趣旨との整合性を判断させる問題や、複数の文章や図を用いた問題など、大学入学共通テストの新傾向型入試を意識した問題が出題された。2025年度は出題されなかったが、2026年度以降の出題に備えて、新傾向型入試の対策も行っておくべきである。

## 【古文】

設問数は9～11問（マーク数13～15）で、2024年度と同程度である。解答形式はすべてマークシート方式（原則五肢択一）。設問内容は、単語力を問う短文解釈、文法、文学史といった知識問題と、主語の判別、傍線部の解釈、内容説明など読解力をふまえた問題である。総じて、幅広い知識と文脈を正確に読み取る力、選択肢を丁寧に吟味する姿勢を要求する問題であった。問題文の文字数は約1,200～1,300字程度であった。

具体的な傾向は以下の通り。

- ・ 解釈の問題は、単なる傍線部の逐語訳を課す設問だけではなく、前後の文脈を加味したうえで思考し、選択肢を選ばなくてはならないものも多い。
- ・ 内容説明問題も、単に傍線部を逐語訳していれば解答が見えてくるというものではなく、傍線部を訳したうえで、前後の文脈の中でどういうことを意味しているのかを判断しなければならない。
- ・ 文法問題は、敬意の方向、品詞分解、識別に関する問題が出題され、まぎらわしい敬語動詞や助動詞・助詞の正確な知識を問う内容であった。
- ・ 2024年度は歌論の主旨や、説話の「オチ」の内容を解説する問題など、要約力と論理的思考を要する問題が特徴的であった。2025年度も基本的に全体の方針は変わらないものの、どの日程も段落ごとの内容に関する正確な理解を必要とする、遊びの少ない正当な問題であったと言える。
- ・ 文学史の問題は、例年どおり3日程で出題されたが、大学入試の平均的な難易度のものであった。

## ●難易度

## 【現代文】

2025年度入試は、全体的に標準レベルの典型的な入試の現代文であったが、2月4日のみ小説文が出題されたため、小説文の対策を行っていなかった受験生には難しく感じられた可能性がある。また、2月4日の第二問は他日程の問題文に比べてやや抽象度の高い内容であり、筆者の哲学的な論述を理解するには一定以上の読解力が必要であった。そのため、3日程のうち2月4日は全体的に難度の高い出題であったと言える。

## 【古文】

2025年度入試は、日記・説話からの出題であり、いずれも入試の古文としては定番のものであった。どの日程も読みやすく、内容がつかみやすい文章であったため、標準的な難易度の出題であった。

## 国語

(一般入試は、一般入試Aの問題のみ分析しています)

## 学習対策

## 【現代文】

## ●筆者のイイタイコトをつかまえよう

評論の筆者は自分の抽象的な意見(イイタイコト)を読者に伝えるために文章を書いている。しかし、それをそのままぶつけても大半の人には理解してもらえない。そこで、具体例をあげたり、自分のイイタイコトと対比されるものを提示し、それと比較させたりすることで、自分の意見をより明確に表現しようとする。入試の現代文は、その筆者のイイタイコト、論の展開を受験生がしっかり把握できたかどうかを確かめるために設問が作られている。よって、問題を解く際は、まず何がテーマ(話題)になっているのかを確認し、具体例と抽象的表現の区別、および筆者のイイタイコトと対比概念との区別を行いながら、筆者の論の展開を正確に把握するようにしよう。そのためには、普段から新書レベルの読書を心がけ、ただ漫然と読むのではなく、各章・各節で上記のことを意識するとよい。問題集に取り組む際も同様である。

## ●幅広く国語の知識を身につけよう

椋山女学園大学では、第一問・第二問を通して漢字や語句の意味など、知識を問う設問も出題されている。漢字の問題集や国語知識の問題集に取り組み、評論文で頻りに用いられる語句などは意識的に覚えておくべきである。また普段の生活や読書を通して、知らない言葉や事項に出会ったら、こまめに辞書や国語便覧で調べるなどして、語彙力や知識を身につけるよう心がけよう。漢字の問題集に取り組む際も同様である。

## ●マークシート方式の問題に慣れよう

大学入学共通テスト対策の問題集やマークシート方式の私立大学対策問題集に取り組もう。ただし、やみくもに問題文を読んで、漠然とした理解のまま選択肢を選んではいならない。繰り返しになるが、その文章のテーマが何なのか、どういう論理展開で、どんな結論(イイタイコト)を導いているのかを把握したうえで設問に取り組むこと。マークシート方式の問題は上記のことが押さえられていれば選択肢を1つに絞れるように作られている。迷ったときには、選択肢をじっくりと見て考えこむのではなく、設問が何を問っているかを押さえたうえで、常に本文に立ち戻り、本文と選択肢、選択肢相互の異同を照合して判断するようにすること。また、本文の分量も設問数も多めであるため、過去問に取り組んで、時間配分の練習をしておくとうい。

## ●ややレベルの高い新書の読書を

椋山女学園大学では、日常生活では目にすることの少ない抽象的なテーマの文章が出題される。そのうえ、内容説明問題や理由説明問題、問題文全体の内容一致(不一致)問題に関しては、しっかり本文を理解していないと選択肢を選べないような設問がほとんどである。普段からややレベルの高い新書などを積極的に選んで読書をするとうい。

## 【古文】

## ●基礎知識の充実をはかろう

古文も、単語や文法、文学史などの基礎知識を問う問題が多い。また、解釈問題はかなり意識した選択肢が正解となるものも多いが、まずは文法や単語知識で選択肢を絞ったうえで、その後に本文内容と照らし合わせて確認するとよい。あくまで基本は知識力である。

古語については300語程度を単語帳などで習得すること。重要古語のほとんどは多義語であるため、複数の意味を覚えておきたい。また、その語の語源・語感を理解したうえで訳し方の幅を押さえ、例文の中でふさわしい訳語を選ぶ練習をすることが大切である。

文法は用言の活用を基礎として、助動詞の接続・活用・意味・訳し方、助詞の意味・訳し方、敬語の種類・用法を押さえておくこと。「なむ(なん)」「らむ(らん)」「なり」「ぬ」「に」「る・れ」「し」など頻出の識別問題にも慣れておきたい。文学史、古典常識についてもしっかり学習しよう。

## ●一人で文章を読み解くことに慣れよう

前述の基礎知識を身につけつつ、私立大学対策の問題集など、実際の問題で知識を使って解く練習をしよう。問題文の中で学習した単語に出会い、その文脈での意味を考えたり、傍線部の中にある重要古語、助動詞・助詞、敬語に着目して選択肢を絞ったり、あるいは解けなかった問題、間違えた箇所に含まれる単語や文法事項をもう一度辞書や文法書に立ち戻って確認したりする中で、基礎知識の定着をはかろう。また、問題集で出会った作品については、国語便覧を使って文学史的な面を調べたり、設問に登場した文学史事項や古典常識について学習したりして、副次的な知識も養っておこう。

## ●作品として味わおう

解釈の問題、内容理解の問題では深い読解力を要求するものもある。問題集で文章を読む際は、単に語学的な分析(単純に現代語に置き換えて訳す)のレベルでとどまるのではなく、その文章の中で「ストーリーがどのように展開しているのか」「どのような出来事が起きているのか」「登場人物がどのような心理状態にあるのか」を読み取るように心がけよう。会話文についても、その登場人物が「どういう意図でそんなことを言うのか」「なぜこのような発言をするのか」まで考え、作品を味わいながら、深い洞察力を身につけてもらいたい。